

規則留

明治二年十月

規則留

明治二年十月

217

規則留

明治二年十月

臣等下
規則留
明治二年十月

五十年史料

217

明治二年五月
規則留



B 95503

醫ハ司命ノ職ニシテ其任最至重ナリ實ニ學業精
叢ナラカレハ健康ヲ保全スルノ義疾ヲ治
痊スルノ理ヲ知ルヲ能ス然ルニ

皇國古來未タ醫道ヲ教ルノ定則ナキヲ以テ學
業大成スルヲ難シ今般大政御維新之折柄醫ハ
司命ニ関スル重大ノ職ニシテ御体中欠リ可ラサ
ル一科ナルヲ被思召新ニ醫學校ヲ御創立被為
在候儀實ニ

皇國醫道始テ奧ル秋千古一変深ク御主意ヲ体
認シ奉リ學業精叢ヲ極メ大成ヲ遂ケ終ニ萬國
ニ超越候様各奮勵可有之矣

庶恥ヲ尊ニ禮節ヲ重ムルハ士ノ恒タル勿論ナ

候得共醫士ハ人命ヲ護リ仁術ヲ執ルノ官ナレハ殊ニ恭謙ノ風ヲ重シ苟モ差溢ノ所業有之間敷候事

入學ハ二七ノ日ヲ限リ候事

入學ノ生徒小年ノ輩ハ小學校ニ入り學科順序ヲ遂ヒテリ候後大學校ニ入り終ニ成業ヲ遂ク可シ故ニ五年ノ間留學シ限ニ退校帰省ヲ免サス然レモ晩學ノ徒ハ小大學校ノ學科ヲ經ルノ餘暇ナク候故直ニ大學校ノ學科ヲ脩テ病院ニ就テ治則實驗シ早ク其要旨ヲ得ルヲ專務タル可キ事

但留學年限不濟中無處退校帰省相願候者ハ仔細取紀候上相免候事

等級ノ進退ハ毎月會讀ノ優劣ヲ以テ相定メ候事

但後日學級相進候上ハ教師試業ヲ經候上甲乙ヲ相定候事

毎日休業ノ外定時刻ノ間登校日課ノ通り堅ク相守リ無懈怠可致精勵事

入寮ノ生徒ハ寮則テ嚴重相守リ然レモ舎長ノ令ニ随ヒ候事

精勤進學者年未取調ノ上褒賞下賜候尚又學業成達ノ者ハ其分ニ應シ御登庸有之候事

校中ノ輩則テ犯シ不行狀ノ輩ハ嚴重相當之罪ニ如シ尚不改數度ニ及ビ候者ハ其藩其支配申達放校申付候事

但令放校候上ハ終身匠業差留メ候事
 學制規則之儀ニ付存寄有之候者ハ無忌憚可
 及建言候事
 右之條令嚴重可相心得者也

非常之節

一學校表御門

臺提灯

壹

張

鍬行燈

壹

張

一同御玄關

臺提灯

壹

張

一西御門

鍬行燈

壹

張

一西御玄關

臺提灯

壹

張

一北御門

人足所

右

一御役所入口廊角

壹張

一大蠟燭

拾箱

一小蠟燭

同

如右

建白取扱規則

一建言者参院スレハ院ノ使部ニ名刺ヲ出スヘキ事

一使部建言者ノ名刺ヲ以テ院掌ニ出ス院掌参院ノ順序ヲ以テ應接所ニ呼出シ建白書一覽ノ上其主意ヲ表出シ姓名月日ヲ簿記スヘキ事

一簿記シテ其書ヲ大主典ニ出ス大主典受テ同ク姓名月日ヲ簿記建白ノ大意ヲ記スヘキ事

一大意ヲ院シテ權判官ニ出ス權判官受テ之ヲ院シテ洛キスヘキ事

一右ノテ院掌洛午ノ上ヨ建白者ニ達スヘキ事

一毎日建白掛ノ幹事一名ツ、集議院ニ相詰判官權判官ト同ク諸建白類取調可申事

一諸部中ヨリ議負二名ヲ公選シ一人ヲ文番ニハノ日ニ幹事一同集會諸建白ヲ議シ可否ヲ付可申事

但ニ七ノ日タリ凡外ニ議事無之節ハ同新ノリ

一前條會議ノ常建言者ヲシテ出席セシメ自ラ讀上ケ可為致事

但讀上迷恣ノ向ハ院中官員ニテ代讀

致候

一前條讀上上衆員評論可有之事

右ノ節建白者自ラ辯解致度向ハ任其意又代辯シ乞者ヲラハ可為勝手事

一衆議ノ上可否ノ數ヲ問ヒ五分ニテ以テ決着候事

但可ト決シ候ハ長官ノ酌定ニテ官印ヲ押シ向々着送可申否ト決シ候ハ其旨當人へ諭シ建白書差戻シ候事

一可ト決シ候上政府ノ參考ニ備ヘキ書ハ大意ヲ提ケ別記シ本書ト是テ長官參朝ノ時之ヲ呈スヘキ事

一向々一差送候後時ヲ以掛合其成行
来リ可申事

但向々ニテ取捨ノ次第當人伺出候
ハ為申聞候事

太政官規則

一日々十字ヨリ十二字迄

ハ所

出所之事

一十字ヨリ十二字迄政廳議事

一願同届諸君願解官ニテ見込書台各分課

ノ印ヲ押シ持込ニ事

但機務議事ハ別取ニ事

一出所中ニ職中ヨリ高議之事件

奏聞

宸殿ヲ經テ解官ニ下シ施行ニ事

一議事中至急ノ事件ハ雖モ諸官員許

可ヲ得サレハ入ルヲ禁ス

一諸官省額同等十二字より二字違病官へ出スヘキ事

但解官ヲ經スレテ出スモノハ非違タルキ事

一制可ノ事件大臣ふ参り第ハ他言系議ニ於テ施行可波事

一官廳座次上ノ間上臣他言冬議着往解官東ノ間分課ヲ以テ着座ノ事

一所前冬仕ノ輩衣冠將衣直岳等ニ内着用可方ノ事

一日々十字出仕ニ字退出ノ事
但第朔一六休暇ノ事

右ノ規則ヲ犯ス者ハ彈正具非違ヲ紀スヘキ事

十月廿二日

太政官

一自今大學校ヲ改メ大學生ト可称事
一自今開成所ヲ大學生南校ト称シ醫學校
ヲ大學生東校ト称ス可キ事

十二月

右被達候間為心得申入候也

大學

校掌ヲ改メ自今由子掌ト可祢臣祿
右之度事

十二月

大學

辨官

示中

可為同之通候事

附
札

桃灯之御印圖之通御定相成候間府藩
 縣一般赤印差紛ハ敷印ハ一坊不相成
 候事

親 玉



勅 任



何レモ自分紋白三處
 紋ヨリ下白

東京大学

以下何レモ自分紋黒三處

紋ヨリ上赤

奏任



判任



紋ヨリ上其半ヲ赤クス

印赤九三處ワタリ貳寸

使部

仕丁

以下



紋白紋ヨリ上下白

非役華族

及水役

四位以上



紋黒紋三分ニヲ赤クス

非役

有位



陣笠之御印圖面之通御定相成候事

親

王



巾二分
巾一寸
明一寸

勅

任



紋并筋裏トモ金

同上

紋金筋裏トモ銀

奏

任



判

任



紋金筋銀裏朱

紋花筋トモ銀裏朱

使部

仕丁

以下



巾三分

紋糸筋裏トモ金

非役華族

及非役

四位以上



紋金筋裏トモ銀

非役

有位



釦ノ長寸笠三分ノ二以下同シ

以下何レモ紋筋无裏等金銀朱ノ差別及ヒ
筋ノ大小多少ハ前書 御規則同様可相心得
事

彈正 堂



巾二寸

刑部 省

建部 司



連山廣キ処寸
狭キ処五分

京都 府

捕亡 方



巾一寸

東京 府

捕亡 方



巾長明キトモ
五分

大坂 府

捕亡 方



巾長明キトモ三分

表門規則

一 門開

朝六ツ半時

但し 潜りて

一回 内

言七ツ時

曰

一 益 詰 三人

朝五ツ時

言七ツ時

一 夜 法 式 人

言七ツ時

如 室 細 言 七 時 迄

一 此 常 之 節 是 時 迄 通

一 忠者并に看病男女使病人より切通行
方被り答ふ事

一 惣古所生徒に要方より出入る者方より市に
送り經れり以通行の方被り事

方より經れり西北門より金ふ都合より係入る者
より事也

二月

役所

北門規則

一 平生諸り門より同五丁中事

但し相立ち時同五丁に付

一 右門内同五丁事其より下れ同事

一 左門内同五丁事其より下れ同事

一 出入り者婦人より出入り方被り事

一 外來男女及宅に訪通はる者お解し歸り給
はる事

一 此常より市に表裏北門内被り事

事

方より經れり表裏北門より金ふ都合より係
入る者より事

二月

後所

西洋船高船買入に依り先般の船並に板もろし
軍艦と陸に在る日本製造の船を勿論西洋
船高船と云ふ船民部省中通高船の管轄に仕
所あり余得て意を西洋船高船所持りの式
を新規買求いとのを民部省外務省連印
に免許状を請ふ別般規程を古き通商港
場運上所より所令所持り余に之をうか得
凡一日本製造の船を初に船政に奉り
人命の物あり損傷よりなり
皇國之所損失より余は自道を不致西洋
船大船に仕替度山多飯より今西洋船
に船所持りのものも厚く四〇五を其案

長きうろたひに去る高板ありふり得る
 上働いとのと蔵重に端より波り多し
 済む別ありと通す所規則の板板あり
 津く海く於て此名吃波うろたひ

東京大学

免状案

記

茅何号

高船

壹艘

船形

長 何間

巾 何間

橋 何本

スクー子ル形カ

バルクカ

鉄製カ

木製力

蒸氣船之分者

暗車蒸氣力

外輪蒸氣力

蒸氣馬力

風帆船噸數

船ノ賣主

何國商人姓名

船ノ原名何々

船ノ改名何々

船ノ價何々

船ノ所持主

何國

何所

何某

右ノ議今般者中ノ船買入ノ議新々依リ
芝屋金所持能条別紙規則ノ極堅可なり
と云ふ也

年号月日

民部省印
外務省印

此船廢朽難用之節、之り解撤波りく
免狀迄納へて申事

規則

西洋船高船賃入度とのをも其名副港場運
之所より領出其上船し善悪新古検閲し
上免許差遣て申事

一 沛國旗之事

右者味取外に候事ふ成附屬し解舟
と直必し揚をて

一 毎朝西洋時規旁八字に引揚ケ夕方日没
迄と限り引卸に急む事

但右沛國旗引揚無之節も海賊船之
取扱請はらし申譯なき事、其國當
通に法に事

一 沛國旗の用法別紙に通て事

但大旗も説日引揚平より少旗引揚
ケ風而海嘯し節も少旗と引卸に急
む事

祝日

四月朔日 四月十日 二月二日

五月五日 七月七日 七月十日

八月朔日 九月九日 九月廿二日

召之通り

一 海軍艦の出合に第戎旗章と云ふ昇降
 一 夜間を旗章より引替へ陰明可引揚燈明と
 青赤白の三色と設け航海中赤は左舷青
 は右舷の點灯し白は前橋揚頂遠方より
 見當易き所を揚ぎ燈明消へるは操るべき
 一 船の出入合多き港は風雨浪高しおそれ
 人を用人互に実當りたる操るべきを日本
 船より凡口操るれども外國船を列々世規
 則に嚴密に公に精密に用ひに應じ
 一 貿易港碇泊中為物陸揚船積り運上所に
 船主免許状と受出入の簿帳
 此を限るに及ばず

一 貿易港おろし為物し取引はせしむる
 通商司よりおろし
 一 船海中と為物船回用表渡金開港場より及
 中諸港に入洋し第ハ十二時 午後二時
 生所運上所又と渡洋所より為物檢印了諸
 出帆し第回航し事
 名檢印し式力左

何船 何月何日入港		何船 何月何日 出帆	何港 何港
何港	運上所	何港	運上所
又 何港	役所	又 何港	役所

右出入旗印請に昂多敷限相勘るゝ事

一 左来日本製高船と廻漕會所と船名并
積石收船と船名并前衆紅水又人教等
不可出書多し通

何国何郡何村

誰船

印 何九 船名 誰

水又何人衆

何石積

右届出に上鑑北のね返事

一 西洋取高船并左来日本高船りと積を何と
其教示物と名并其送る先と送通高船并
運上并くつるを出た其港より陸揚又ハ船積
とと金き示物とてお出する事

一 諸港に着船し次第淺込人船取しに先出候
事ハ候き方而掃末江居事

但船中より所へ示物とてお出する事

左来日本高船

一 船中衆組と者而記しに名と水并ふ事
陸地よりとて并送る事

一 大砲小銃玉薬水等積込陸揚し其港運
上所式を収所へ先送るとしお出する事

一 海賊防衛とて外に用事しとてお出する事

銃器備金に減らさるる一ツトにても其の損
あつた多許状民部省より清政府に送る
中

一 滞船入費と一 船中一日金にありて是れ
百高金と云ふ勿論及令官府に費用
りとも船に運送自他と得るに難費あり
り市にても候多し船中より割白し
りりふ若し

但諸港より威權を問ふ振舞ひ
せ故に此より留る事あり候なり

一 免許より外國へ通航し候者其の
此犯るるなりし船中荷物と云ふ此

一 免許し事

一 免許と受りて外國人と雇い船中使は
候者若し

但本港より他より上陸し候ハ護衛
者もあはれ所より及所より官
に候者あり

一 困難より及所より内外國人と差別
救助あり

但外國人の本港より及所より及所より
入費ありしなりし船中港場運送
ありありしなりしなりし

一 外國人の貨物を市に約定する通商
船より及所より運上りて税金と云ふ

旗幸引揚り沙のを許らるる

一 外國人々々合進海より密高に中一旗
を切高ちくかぬ規則に書いた紙に計り中
を船五揚り及び建うる事

一 高船に記号を列布因面に通製造送り
所を控回係う石板事

一 西洋形高船を氣を百噸有一ヶ年全控を
凡概を百噸有一ヶ年全控をえ從主通高
引らう他は事

但し本年日本製高船に外を橋石板百石
に金をぬか可た地より

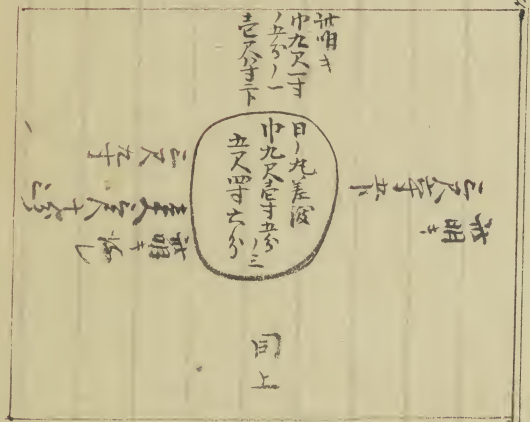
すも通に定り案厳重に可た守事

明治二己年十二月

民部省
外務省

祝日之用分
大旗之圖

凡而曲尺



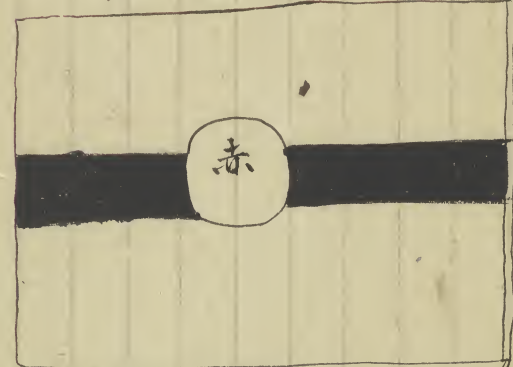
平常之用分
中旗之図

日ノ丸
中ノ丸
凡而曲尺
中旗之図
日ノ丸
中ノ丸
凡而曲尺
中旗之図
日ノ丸
中ノ丸
凡而曲尺
中旗之図

當學規則

- 一 毎朝十字出仕二字退出之事
- 一 毎月二七日四九、日第十二字ヨリ 別當大少監
官中、中参仕之事
- 一 別當大少監東南二校に折、視學之事
- 一 表講釋四、日ヲ定日トイタシ 別當以下
席より講書目録を通候事
- 一 領田届都、可乞官裁書類ハ大少監ニテ
見込、係連印イタシ 別當大少監ハ差出
支、檢査之上大學、印ヲ押シ 辨官、可
指出候事

日本高船記



曲尺 帳六尺

船名

何國何村何果

所持

寸法

日九絳尺四尺

上白二尺

中黒二尺

下白二尺

但裁断之事件別當ふ参り第ハ大
少監之於之可施行也事

一別當大少監東南校視字ノ日トイハトモ其
内一人ハ必参学諸務可取扱候事

一判任官黙陟進退之儀ハ別當以下大少監ニ
イタルマテ台議ノ上可取扱候事

一寮生ヨリ寮長被申達候節豫其藩ハ不遂
應接可申達也事

一判任官以下ノ拜授ハ大少監ニ可申達也事

但参任以上トイハトモ事柄ニヨリ大少監
ニテ申達候儀モ可方し候事

一官裁ヲ可乞事件ハ別當以下大少監ニテ
参

朝之上分課ノ辨官ト可差出候事

但事柄ニヨリ書面ニテ指出候儀モ可方之
候事

一當学職負之輩上言建議イタル度者都而
大少監ニ向テ可差出事

但機密事件ニ付直ニ別當大少監ト建
言イタル度者ハ其旨一應大少監ニ可申
置候事

一諸布告廻達類都而不指急事件ハ取束
ニテノ日ヲ定日トイタル主簿ニテ廻達可取
扱候事

但差急候事件ハ定日ニ付抱迅ニ回達
取計勿論之事

一 辨官并各省府縣合等之第 證トシテ
相用候印鑑ハ大學之印ニ付可相用候
事

但入學開板其餘細務ハ大學圖印
可共用ニ事

正月

大學

小學

子弟凡ハ八歳ニシテ小學ニ入り普通
學ヲ修ム兼テ大學專門五科ノ大

意ヲ知ル

句讀

習字

語學

算術

地理學

五科大意

子弟凡ハ十五歳ニシテ小學ノ事訖

中學ニ入ル

中學

子弟ルツ十五歳ニシテ小學ノ事訖リ
十六歳ニ至リ中學ニ入り専門學ヲ修ム
科目五アリ大學五科ト一般

教

神教學

科

修身學

法

國法

民法

商法

刑法

詞訟法

萬國公法

科

利用厚生學

典禮學

政治學

國勢學

理

科

格致學	星學
地質學	金石學
動物學	植物學
化學	重學
數學	器械學
度量學	築造學

醫

科

豫科	格致學
數學	度量
化學	鑛土植物學
本科	
解剖學	原生學
原病學	藥物學
毒物學	
病屍剖檢學	外科斷訟法
內科外科及雜科治療學兼攝生法	

文

紀傳學

文章學

科

性理學

子弟凡ソ二十ニ歳ニシテ中學ノ事訖リ
乃チ其俊秀ヲ選ビ之ヲ大學ニ貢ス

二月

大學

大學規則

學子體

道ノ體タル物トシテ在ラサルナク時トシテ
存セサルナシ其理ハ則細常其事ハ則政
刑學校ハ斯道ヲ講シ實用ヲ天下國家ニ
施ス所以ノモノナリ然ハ則孝悌彝倫ノ教
治國平天下ノ道格物窮理日新ノ學是
皆宜シク究盡スヘキ所ニシテ内外相無子
彼此相資ケ所謂天地ノ公道ニ基キ智識
世界ニ求ムルノ

聖旨ニ副ハンヲ要ス勉メカル可シ哉

學制

輦轂ノ下ニ大學一所ヲ設ケ府藩縣各中小
ノ學ヲ置ク皆大學ヨリ領ツトコロノ規則
ヲ遵守シ材ヲ育シ業ヲ廣メ國家ノ用ニ供ス
ルヲ以テ務トス而シテ大學ハ人文ノ淵藪才
德ノ成就スルトコロ之ニ入ラントスル者必ス先
ッ其地方ノ考課ヲ歷諸學漸ク熟シテ
始テ
輦下ニ貢進スルヲ得ルナリ

貢法

生徒凡ッ三十歳以下ヲ限リ其地方ノ考課ヲ
歷知事證憑ヲ予ヘ
輦下ニ貢進スル者之ヲ大學生ニ補シ各

自好ムトコロノ科業ニ就キ博士助教ノ
 指授ヲ受ケシム在學三年ヲ期トシ期滿
 ツル時ハ解額セシメ更ニ新ナル者ヲ以テ之
 ニ補ス若クハ在學中撰任セラル者アレハ
 随テ定額ノ人貢ヲ貢進ス其定員ノ如キハ
 之ヲ後議ニ附ス

試法

試以藝對策ノ法ヲ立テ春秋ノ二仲月預メ
 日ヲ刻シ其減否ヲ對試シ優等甲科ニ
 登ルアラハ各其條件ニ就キ反覆討論ヲ
 遂ケ言行相符スル者ヲ判定シ扶ヲ具シ申
 奏シ以テ廊廟ノ末擇ニ充ツ

學費

府以藩縣管内石高ニ應シ公納セシム其
 定額ノ如キハ之ヲ後議ニ附ス

學科

教

神教學

科

修身學

東京大学総合図書館

法
國法
民法
商法
刑法

詞訟法
万国公法

科
利用厚生學
典禮學
政治學
國勢學

理
格致學
星學
地質學
金石學

動物學
植物學

化學
重學

數學
器械學

度量學
築造學

科

醫

豫科

數學

度量

化學

鑛土植物學

格致學

本科

解剖學

原生學

原病學

藥物學

毒物學

病屍剖驗學

醫科訴訟法

內科外科及雜科治療學

兼攝生法

科

文

紀傳

學

文章

學

科

性理

學

二月

大學

外事於衆人始而漸以者至半日丁日限ふに
お通し一ヶ月

但知るよりのもは時より限お通し一ヶ月
御夜目よりいふ時とわがと違別と時宜
ころを

布し通改めお達也

二月十九日

没所

門中満中

禁中 大宮 中宮等宮女 柗灯之
印圖面之通御定ニ相成候事

自分紋黒三處以下同シ

紋ヨリ上ヲ赤クス

上 等 宮 女



櫻白一處雛形下圖ヲ如シ



紋ヨリ上其申ハシ赤クス

中 等 宮 女



櫻白一處雛形下圖ヲ如シ



下等宮女



櫻白雜欣下圖，如左。

外國貿易に依り神奈川港と功大坂兵庫長崎
新潟箱館六ヶ所市販開かれりとも諸商賈
ともに各傷所ありて取らうは雪石開港場
ありて密高取引はりとも海軍以てか
車にちかきるを先達を所命とて海軍
所係船をも明物揚載油一とて派舟
ありて厚うな心は船をもりとも津と浦とを
都々傷所にもりとも取汁方お弁とのも
可とも式を難船救助の節に入泥一難船
人お常一お船中とてお取汁とも所交際とて
お船中とてお取汁とも所交際とて
お船中とてお取汁とも所交際とて

取歸ふは而長ち民も外國人より入る内
賞賞清くは市も改令其より仕遊りし
人益々多能くし者も多し其は所好
所好は而も其の三其地を管領し其の口を
居る飲又し其の心は其の見通し其の
節は其の文書を所好分可多し其の
取歸し其の第一層は其の保可保
一外國人より其の相對し其の雇入
而も其の市令し通るは其の諸多科
其の或も西洋形し其の運用も其の
其の少多ありし其の所好は其の
年限も其の極し其の古面と東京の
省く其の所好は其の所好は其の

所印章不持し其の國人より其の
人口保あり其の諸多接海は其の
其の也し其の也し其の諸多不
其の改令も其の所好は其の所好
其の也し其の所好は其の所好
内地通し其の所好は其の所好
其の也し其の所好は其の所好
其の也し其の所好は其の所好

四月 太政官

道名別紙條目し其の所好は其の所好
其の也し其の所好は其の所好

條目

不完港場取諦心得方規則

一 以レハ、漢金又ハ、港浦、ありて、西洋船ハ、船入
降リ、時刻と、夜ニ、直係、倭人（倭人）
陽所（陽所）ニ、長ク、是船ハ、糸組、入降、ハ、極意、可（可）
守事

但言語不通者十分難令其飲也
又其酒乃由外國販入故其
入津之味多異、かくり居る者
又其砂糖字亦似うてあらず
一尋常之と薪水食料と盡きざる

求りて入津に我に及り其土地は橋溪
岳庫長崎新海に館あり里數と云ふ
に中一程に遠路なりといふ者なり
とも前文開港場に内なる可なり
こゝに海一方と断りて或は名開港場
七十里又も百里と遠き場所なり
候事其土地は純くて水産に名
ありと云ふ船中一程相与に分ち
代金下流なり

但金二万兩較之勿滿船之碇泊日數刻
限亦亦細少得大石出市半

一 号船之围名船名船之各書舟少々少

方被食料衣被等迄仕賜てを申

一船は借彼三兩載りて船泊大蔵に他人を
勿論器械と用意してを申

一常組人の内溺多し尸多し飲或も溺海中死
に者埋葬に家や立いて墓を内都府より
陽所へ埋葬てを申

一洋中より大船破損し常組外国人より船
具等取生致し居住供見当りて早く我船
に助け載同港場へ送り居り飲又も早く他
走死に考りし所其を他に其受取海産便
宜と見計同港場へ送り送申

一難船漂著りて早く外務省候より同港場
より半里程と云ふ所へ登岸し不浪江進

りし其掛官復し出張と云ふを因りて
申

一難破船一難船同立陸路より同港場へ戻
渡りて同國人より取致りて同港場へ者て半
余計に云ふ一常組同港場へて送申

一因難船漂りて常組同港場へて送申
同港場より右船又ハ誤具難破等と沈
没しちて流矢に又ハ村方より取致りて
向後異存りて外国人より接文し其の如き
漁き申

一難破船難破をまゝに送外国人へ一旦引揚
げて方船より一方より再び取致りて其
間取致りてその如く送りて其の如く

人より相頼りも容易なり。諸中、安波方
より、遮るべきなり。其所、同一なり。諸勿論、入
費、而、武、派、有、公、貨、根、諸、反、其、派、も、不、及、中、所、
も、異、諸、不、も、証、保、何、事、も、ま、あ、り、取、在、り
一、因、難、救、助、自、入、費、も、三、方、も、所、國、氏、難、船
ハ、事、一、度、も、不、同、人、ハ、其、救、り、事、も、方、一、
相、互、も、事、も、天、災、も、派、有、其、他、も、入、費、も、あ、り、
り、も、り、あ、り、当、り、も、其、在、云、船、修、渡、又、ハ、洋、為
日、船、長、引、其、中、も、土、他、難、渡、及、り、最、功
り、一、諸、助、定、巨、細、も、名、認、不、同、人、下、り、其、
後、見、名、下、り、下、向、中、り、無、諸、反、中、り、公、而
人、持、合、を、そ、り、其、論、者、而、在、同、港、場、ハ、運、産
り、名、其、裁、判、所、ハ、其、出、り、を、時、恒、こ、り、

也、土、他、入、同、人、之、外、同、人、下、り、其、在、云、
り、受、り、其、府、藩、縣、ハ、入、費、も、可、相、互、勿、論、ハ、
り、り、り、ハ、難、例、も、多、り、派、有、不、常、省、又、も、開
港、場、武、官、等、も、り、也、其、修、り、中、り、其、事、
一、難、破、り、船、具、又、ハ、改、修、り、る、所、也、武、官、船、修、等、費、
其、中、ハ、百、も、不、同、人、下、り、其、在、云、り、其、相、互、
ハ、派、も、以、賞、求、り、派、も、若、も、其、在、可、相、互、
一、難、船、も、亦、も、常、留、り、其、事、係、子、ハ、一、府、藩、縣、
も、其、所、り、聖、衛、り、其、の、中、り、其、事、
一、其、組、人、等、ハ、西洋、ハ、難、破、船、海、底、ハ、漂、着、り、
其、係、子、ハ、其、中、り、其、事、
一、其、外、同、人、ハ、取、り、其、中、ハ、其、事、其、中、ハ、其、
其、中、り、其、中、り、其、中、り、其、中、り、其、中、り、其、中、り、

文字を方々思ふ事多し判又ハ調印方様を
 思フ知文なる事後クハ證と雖も成ハ此方より
 うる也此證又官よりいり知文より思ハる調印
 印一うる也此證方より思ハる事亦思ハる知文
 西洋文ハ調印も勿論多ク勿論載り多ク思ハる
 事ハ欺り多クいり也後と共詮せしむ
 ともある事

一名條目と云ふ何出で成又ハ何事とも思
 所ト最近キ開港場致又ハ東京外務省に
 する出り事と云ふハ勿論事柄多ク主權を
 所ハ漏るハ開港場一も重キと知文外務省
 正可ヤノ事

布之通

年四月

内布告寫

驛遞之法一昨年助郷改正被仰出候處兵馬倉卒之際ニテ純然之整置革ニ至リ兼追々驛郷之疾苦差迫リ候趣ニ付差向驛郷救助之ヲノ當分別紙之通驛法相定人呈遣制限相立候條諸官負共御趣意奉體シ旅行之節驛郷之難澁不相成様可心得候事

二月

太政官

一今般驛法改正ニ付而ハ二官六省其他諸局府藩縣之官負公事旅行之諸道共官位相當表ニ準シ人呈遣制限相立候ニ付別紙制限表之外

入用右之幣ハ都而相對賃錢タルヘク事

在職非役共旅行之節ハ公私ニ不拘是迄定賃錢ヲ以通行致来候處向後私用旅行定賃錢ヲ以人足遣之儀都而廢止候事

一府藩縣官負從前其役所之印章ヲ以人馬遣致候處向後都而人足帳ハ驛逆司之印章ヲ受通行可致事

一東西京出立旅行之官負ハ兩京驛逆司ニテ印章受可申事

一西京以西府藩縣之官負東行之節ハ大津驛逆其役所之印章ヲ用ヒ同所ニテ出張驛逆司之印章受可申事

一品川驛以西府藩縣之官負西行之節ハ靜岡驛

追其役所之印章ヲ用ヒ同所ニテ出張驛逆司之印章受可申事

大津驛以東府藩縣之官負東行之節ハ熱田驛追其役所之印章ヲ用ヒ同所ニテ出張驛逆司之印章受可申事

但東京以東北其外共出張驛逆司無之場所ヨリ出立之官負ハ其役所之印章ヲ以制限之通人足遣致シ驛逆司出張有之驛ニ至リ改受可申事

一東西京大坂府往還之官負ハ必東海道通行可致事

一此度驛法改正ニ付而ハ府藩縣ニ於テ驛逆批之者相撰管内之驛々東海道每驛一人宛中山

道ハ二三驛ニ一人其他諸道共行旅之多少
ニ應ニ定詰之官負ヲ差置毎事驛逄司之法則
ニ從ヒ驛法取締可致事

但右出張官負之名前ハ兼而民部省一可屆
出事

一総而旅行之官負人足遣之印章驛逄司ヨリ受
候ニハ其者等級ニ照準シテ相當之人足遣高
ヲ人足帳ニ認入差出印章受可申事

但各地方驛逄司出張無之場所ヨリ發程之
分ニ同所之手續ヲ以其役所之驛逄裁ヨリ
印章受可申事

一総而旅行之官負驛逄司出張有之驛ヲ經過候
ヲ同司候印無之人足帳相用候者ハ定賃錢之

純立不相成事

一行幸 行啓等之節ハ人足遣方別改之御處置
可有之事

一非常出兵平時或兵更番等通行之節人足遣之
儀ニ前同所之事

一宿立人足定賃錢割増毎驛地子免許并給米下
渡其他驛路行旅取扱之儀ハ驛逄改正表郵傳
規則之通タルハク事

諸荷物量目改之儀ハ諸道貫目改所定則之
通タルハク事

右之通驛法改正候條此段相達候事

午二月

太政官

人足遣制限表

公事旅行之官負定賃錢人足遣高制限

一茅一二等 從一位正二位從二位相當
 總人足二十九人

此譯

長棒駕籠

一挺

六人

長持

三掉

十五人

兩掛笠籠

四荷

八人

茅三四等 正三位從三位相當

總人足二十二人

此譯

長棒駕籠

一挺

六人

長持

二掉

十人

兩掛笠籠

三荷

六人

一茅五六等 正四位從四位相當

總人足十七人

此譯

長棒駕籠

一挺

六人

長持

一掉

五人

兩掛笠籠

三荷

六人

一茅七八等 正五位從五位相當

總人足十二人

此譯

功棒駕籠

一挺

四人

兩掛笠籠

四荷

八人

一芽九十等 正六位從六位相當

繼人足十人

此譯

初捧駕籠

一挺

四人

兩掛笠籠

三荷

六人

一芽十一十二等 正七位從七位相當

繼人足七人

此譯

重駕籠

一挺

三人

兩掛

二荷

四人

一芽十三十四等 正八位從八位相當

繼人足五人

此譯

重駕籠

一挺

三人

兩掛

一荷

二人

一芽十五等 正九位從九位相當

繼人足無之

但御用之次芽二寄二人ヨリ五人迄ヲ許ス

一芽十六等 分三等

一等

二等

三等

繼人足無之

但御用之次芽二寄二人迄ヲ許ス

一諸藩權少參事以下在職之者等級ハ追而御規
則被 仰出候追當分大中小藩之無差別芽十

二等ヨリ第十六等迄ヲ以テ藩々ニ於テ豫メ
等級相互人足遣之制限ニ照準シテ旅行可致
事

一諸官省其他諸局府藩縣共等外勤仕之向旅行
ハ經人足無之ト云ハ格別遠方ナラハ別段之
評議ヲ以テ分三等之例ニ從フハキ事
一皇族華族非役之向公事旅行之節ハ位階相當
ヲ以人足遣可致事

一然而地方非役之者公事旅行之節未等級御規
則ニ無之候間先當分之處士族ハ第十二等ヨ
リ十五等卒ハ十六等之制限ヲ以人足遣可致
事

一官負免職ニテ旧籍ニ復歸之者家族引纏之節

ハ公事旅行之振合ヲ以人足遣可致事
右之通相定候事

午二月

太政官

驛遊改正表

今般驛法改正被 行出候ニ付差向東海道之
分左之通相定候条驛郷共勞逸無之様各地方
官ニ於テ取締方可致事

一昨年從前之宿立人馬ヲ廢シ大中小路之驛
驛附屬村々組込驛郷合併申付置候處當三月
晦日限り更ニ廢止ノ事

一四月朔日ヨリ一驛人足百人定立申付候条正
路ニ相勤不足之分ハ驛場並傍之村々ニテ當

分相當之助郷申付候間平等ニ觸當可申事

一驛々人足賃錢當四月朔日ヨリ從前之十倍之上ニ更ニ二倍相増都合十二倍増ト相定候事

但助郷人足之分ハ石十二倍之内十倍相渡殘二倍ハ驛々立人足助成ニ被下候事

一宿馬定賃錢之儀當分被廢止候事

但商荷其外相對賃錢ヲ以馬繩立候儀勝手次第五驛郷都合ニ寄雖亦用物人足荷物ヲ馬荷物ニ振替候儀ハ不苦候事

一馬荷物定賃錢ヲ廢止都テ人足遣ト相成候上ハ人馬共相對雇之繩立有之第十二倍之割合ヲ以適當之賃錢ヲ不貪様驛遞拭之地方官ニ取締可致事

一從前下ヶ渡候驛々問屋飛脚給米被召上今般宿立人足申付候ニ付地子ハ當分被差許外一驛米二十五石宛諸入費トシテ給支候事

但佐屋路ハ拾八石宛給支候事

一驛々取締之儀ハ向後地方之官負出張之答ニ付且追之取締役名目天苗字等差止候条以來元メ役ト心得可申事

但取締役扶持ハ以來不被下候事

一先觸并遠見人足等宿立人足之内ヲ以遣拂候儀八十人迄ヲ以差標可取計事

一杖拂宿役人出迎其外総テ馳走ヶ間敷取扱無之様去々辰五月被相觸置候處追々櫻リニ相成候哉ニ相聞候間向後厚相心得此度相守可

申候事

右之通相定候事

午二月

民部省

諸道貫目改所定則

貫目改所驛名

東海道

品川

靜岡

熱田

大津

中山道

板橋

追分

洗馬

陸羽道中

子住

宇都宮

甲州道中

内藤新宿

以上

一貫目改所之驛々江者管轄地方之官負二人ヲ

置晝夜一人宛相詰諸荷物量目改方可致事

但東海道改所驛々江者驛廨司之官負可立

會事

一貫目改之時限ハ外之半刻ヨリ申之半刻迄之事

但急用夜通之事之分ハ制限ニ不拘事

一駕籠諸荷物共貫目之儀ハ官負出立之第人足

一人持七貫目之定ヲ以其者違高制限ニ照準

シ荷造イタル改請可申事

但驛廨司出張無之場所ヨリ出立之官負ハ

其地方驛廨掛於テ相改左之雛形之通り本

札ヲ附可申事

表

四

人足何人何分持

裏

何

一長棒駕籠

人足六人

但駕籠目方千道具共合而貳拾四貫目ヲ越

ベカラス

一枴棒駕籠

人足四人

但駕籠目方千道具共合而拾貳貫目ヲ越

ベカラス

一坐駕籠

人足三人

但駕籠目方千道具共合而六貫目ヲ越ハ

カラス

一宿駕籠

人足二人五分

一長持而貳笠籠其外諸荷物者都而人足一人

七貫目持之定廿七貫七百目者一人一分拾

貫五百目者一人半拾四貫目ハ二人之割合々々

ヲ以荷物之量目ニ隨ヒ相定貫目改濟之ハ

相渡可申事

一諸荷物貫目掛改之上過賃目相成候分ハ前改

所又ハ其發程之場所迄前條之振合ヲ以賃錢

掛度可致事

一諸道驛々傳馬所止者秤相備置不相當見諸

候荷物ハ貫目掛改可致事

駕籠元諸荷物共祭程之節其地方驛並其ニテ
付置候木札者改所於テ改済之節木札ト引替
可申事

一通行之官負改所有之驛々止止宿定節ハ掛改
之定刻限ニ不拘翌日出立之節改請可申事

一貫目改所止出張之宿役人ハ本陣或ハ旅籠屋
渡世致サル者ヲ撰舉可致事

一諸荷物掛改之節宿主又ハ下男下女等改所止
立寄荷物取扱等致間敷事

右之通相定候事

十二月

驛 通司

郵傳規則

諸官省共他諸局府藩縣之官負公事旅行先觸
之儀向後右先觸純中旅行官負之官名及姓名
之筆ヲ記シ制限ニ從ヒ人足達且休泊日月共
認入奥書表紙共其局々之名印ヲ以發程之
前日相違ナリ差出可申在急御用ハ其時宣ニ
應スベキ事

但是迄先觸繪符等江御用之文字認來候處
以後官負之先觸元所持之兩掛掉荷物之繪
符等都而其役場又者其官名ヲ記シ御用之
文字認申間敷事

一夜通リ經者成ノ刻ヨリ寅之刻迄ハ定賃錢五

割増之事

一晝早追者定賃錢之倍增夜早追者二倍增之事

一然而駕籠は諸荷物共割込候人足之儀者強弱

二隨て人負ふ不可論事

譬ハ拾四貫二人持定之而抵一荷ノ一人ニ
而持運ニ四人持之坊棒駕籠ヲ二人ニテ昇
送候モ人足之強壯ニ寄ニ自申タルベキ事

一驛々旅行繁ク人足達込候節ハ通行之官員
於テモ聊斟酌ヲ加ヘ從テ權威ヲ以宿役人ヲ
署候様之所爲有之間敷事

一宿駕籠之蒲團者有合之品ヲ用候筈ニ甘強而
善惡ク不可論事

一總而旅行之官員人足帳傳馬所止差出候節改
所之改濟又者其官員之役所ヨリ差出候小札
ト引合ニ人足差出シ可申事

右之通規則相定候事

辛二月

驛 迹 司

學校

學長

大教官

中教官

少教官

大授讀生

中授讀生

少授讀生

典籍

書記

自今校中職名右之通相定候事

大博士充之

中博士充之

大中助教充之

少助教
大中少助教生充之

病院

院長

大中博士充之

大當直醫負

少辨教充之

中當直醫負

中少助教充之

少當直醫負

大中少得業生充之

大護長

少護長

大司藥生

中助教已下充之

中少司藥生

大主器

大得業生已下充之

少主器

自今院中職名右之通相定候事

拝借邸家作の掛り

源平家

證

一金河兩也

河所河之誰と他跡

存作一式の掛り

但平存二階家領長石古家作

土藏元建坪河石聖建具河注

此代金銀方

高河ノ河月より口括八ヶ月ニ割金月減

金河金銀毎月二百五十兩遠上河ノ移

名老ノ般

所出此通和拜儀郎ニ多クハ河ノ古物

代金と世拂りやち取れり身上一切の減を前
 刻金に於てはあき直うわぬに就ては沙汰
 沙汰仕込第に相對し以て減派の清く人々
 残納と云ふ物うがはそ取を双方と云ふ出た第一
 引取人等しきゆを家作に返して仕度と云ふ
 減と云ふ他控係留は片に取を以て云ふ建
 坪より控別減少減し片に取を減減令一時皆細
 工仕込後控別減少減

元河藩在

何れ

何官在

何に誰に

誰人

日 月 日

何に誰に

東京府

何に

博覧會規則

今度初の博覧會と毎五年一度の常式催へる事
 と見ゆ先別段に地方とを設けり就中博覧會
 費は預取并各國政府に託して各連一處に
 心附ありし事
 博覧會と云者の大に利益ある事とせしめ
 人知らざる者なき所又茲に此をめぐり
 して之に只是とばかりし通るは各國政府
 及我國の人民は其の品物差ち方々を力あま
 るべく入用する事とせしめ其の利益を
 入用と看する都合に仕なりと取除くべしと
 此の通規則と定む

各國とも條約しき個に空地と分れる。然く
 唯不物と分置き、陽の空をさるるは此陽所
 なるも、各國品主自分し不物と博覧會場
 差出されずと得る事、とイギリス人曰く、
 便宜と云ふ。
 國々、風俗と便利とを考へ、國産製造し
 主際し、好悪と日利を圖る事、勿論あるも、
 主望より、不物に潤ふ法、を介博覧會に掛り
 合し、諸事に見込を著し、我國博覧會
 預取、市をさるる差支る事、あるは、他、
 於るも、東に役人と命し、今、博覧會
 一條、自前事、おぼしき、遂げ、ふ、大、用、減、少
 こそ、採、お、高、し、石、板、と、る、人、事、と、定、む

別紙規則書

曾、千八百五十一年、我、嘉、永、子、開、き、博覧
 會、預取、今、後、諸、職、製造、品、不、物、子、學、向
 所、新、發明、諸、品、と、選、分、と、博覧會、と、定、
 ころ、我、嘉、永、子、開、き、目、論、見、多、其、子、と、會、ハ、ロ、ド、ン、府
 甘、ウ、ス、ケ、ン、レ、ク、ト、ン、我、嘉、永、子、開、き、於、千八百七十一、年、我、嘉、永、子、開、き、正月、一、日
 我、嘉、永、子、開、き、我、嘉、永、子、開、き、同、九、月、廿、日、我、嘉、永、子、開、き、博覧會、我、嘉、永、子、開、き、開、我、嘉、永、子、開、き、グ、我、嘉、永、子、開、き、
 此、博覧會、ハ、永、世、不、朽、建、物、と、造、言、我、嘉、永、子、開、き、其、内、
 借、附、場、と、定、く、我、嘉、永、子、開、き、只、今、草、木、養、植、社、園
 借、附、場、と、定、く、我、嘉、永、子、開、き、建、築、中、我、嘉、永、子、開、き、あり、
 各國、製、造、品、と、分、置、き、且、子、際、好、く、博
 覧、會、と、差、出、と、定、く、我、嘉、永、子、開、き、裁、判、役、に、於

書と得て後河玉と通ぶる傳中に入りて
免と爲し一子と博覧會ハ一子ハ七
たし不物と云ふに怪し一各示郡類あり
役人附金又そ不物とつゝ仕方譯柄と云ふ
之附置く也

第一之部

技藝之分

他實用ニ至るものあり實用ニ至るものあり

第一各種之画類則水画 繪具と水と油画の
膠画。蠟画。玻璃之画。陶器之画。切嵌細工。
硝子木石壁に著て国画と云ふ一もの七質既類
第二石像及び太神古之雜形。雜石。壁石。
木土焼。金族。象牙。玻璃。寶石。及び地之

物我といふ彫刻なり

第三木版図。金版図。石版図。之類寫真圖。

第四建築方。細国画。及び雜形

第五各種織物鋪物縫衣之類及織物より
製し

但製製造と粘紐と見たりと其着也
画凡し品目と通するなり

第六凡し師と云ふ物と下画

第七太古或ハ中古代之画切嵌細工及び陶

器之類と云ふ一物を其類肥油と和し

又之工レキテルもの細と云ふ一物

第二之部

製造製造と其製作物と

ある物に製し、こづるもの

第八種に焼物 土器 石細工 土彫り 陶器
ハリヤシと云ふ製し、ある器及び其の用
用する焼瓦を介し、實用するもの、其の
所物と云ふ風に道具花之と知るもの
第九種に織物 新製し、一種の物と祭服
で、又いふ之と製する、新法花、羊を
織ある新工又し道具

第十種に美術教導し、つるもの、その
書と器

第十一種に建物の入用し、ある学校
器物

第十二種に地圖、地球學、地理學、道
書、器、地圖、地球學、地理學、道

西洋と運動するもの、其の物、植物、

枝葉、生物學、究理學、教導し、仕方と著述

書、画、雛形、

各學校に於て教導し、仕方と著述と
證據と、そのもの

第十三種に部

各物、其の

第十四種に製造物、高貴な、其の細密に、規
則及び總表と出版する

第十五種に部

草木、養植、

第十六種に草木、菓實、野菜、花、其の

第十七種に養植法と、其の流、其の

第十八種に博覽會と、同、其の流、其の

第十九種に規則及び、其の流、其の

政府は草木養植社中より出版せし
第二号の部より一物一個の見かけと差違
を認めし但し各品類又ハ猪の肉と鹿の肉
を認めし一物勝附方ハ是れ博覧
會の法也一此方と改定國として順序とを
定め物に種類に従ひ區別を定めし事
區分あり一地味より分る一とハ自國政府
より場中に入りし允許證を得し者
ハ此方と改定一各國より裁判後と命
區分ハ國裁判後と允許證を得し者ハ送
入する物と定む一且場中より送
入する物ハ沙汰次第と定む一且場中より送

一旦場中より勝附あり一物ハ博覧會終
了後で他所に運出せしと許しし物
ハ其色を定む一其真見の中核より
相當の土産附係建物より送る一且
運送者ハ諸入費を拂ふ一
地代に取主より一且硝子と注し飾臺
及び其花を水口提車と備ふ一
方より入費の品より取らる一機械
ハ其を自國より運入し飾附し
我勝取去場中ハ諸品と最丁寧に扱
ふ雖も破損紛失あり一其やむを得
ず物毎に直税に附れと附る事
品毎に倍子あり且其金一為子と改定命

一 不物と取扱い——むづし 品物毎に所在
 場所後陽の居あて又刺し 新工式或ハ
 格外他より勝まる 所以と細き認免所
 り——置——
 勝附の地位とふきん 為免各所、種
 ありき 都分あり 日と定て 史原保あり
 市岩さき——しを 節ありて 時りと嚴
 室より——誤ちを 採り扱へ 依り 外國
 又ハ我國產の 差別あり 文者日 附く 漢
 抄来りのハ 決して 場中より 入ると 免て
 同場後直より 各所、評議と 細き記——
 八百七十八年 七月 才百 校中 未 同 出
 版と 爲し

博覧場中、諸品物の功益と取扱い
 多々 各國より 汲人と 命とある 諸あり
 褒賞し 印と 号あり 事、之と 虽とも 博覧
 場より——事と 詮する 書附と 各所、
 ありき
 品物の目録ハ 英語にて 出版ありき
 各國より 要用と思つて 自國に 諸り 翻
 譯する 事 諸あり

ロイヤリティコロナル

セケレタリー

ヘンリー・ウィグモースコット

ロンドン府オックスフォード・ストリート、ゲール

各所

一千八百五十二年、博覽會後所より

城外伏見より河州守口迄四ヶ驛規則改正別券、通り定ふ所申候条此より達

度々

旨

太政官

より通ず 所云迄より入也

御官

城州伏見より河州守口迄四ヶ驛高七月朔日ヨリ驛法改正被 仰出

庚午九月廿日御門張出

診察日

早ノ日 九ツ時ヨリ

十月

六日 十三日 廿日 廿七日

診察日右ノ休日ニ當リ候節ハ其翌

日ニ送リ候事

但急病ハ此限ニアラス

官祿定則

東京大学

官祿定則

第一等	現米千二百石
第二等	同 千石
第三等	同 七百石
第四等	同 六百石
第五等	同 五百石
第六等	同 四百貳拾石
第七等	同 三百四拾石
第八等	同 二百七拾石
第九等	同 二百石
第十等	同 百三拾石
第十一等	同 八十五石

第 十二等

現米六十七石

第 十三等

同 五十石

第 十四等

同 三十三石

第 十五等

同 二十六石

第 十六等分三等

一 等

現米二十石

二 等

同 十五石

三 等

同 十二石

官祿渡方定則

一官祿ハ一ヶ年ノ月叢ニ割合陽月二十二日ヨリ二日ノ間ニ區分シ可渡事

但律 命 免セラレ共十五日前後

ヲ以一ヶ月半ヶ月之分ヲ可定事

一等外之祿八十石ト七石二等ニ定ムヘシ

一官祿金渡ハ前月十日廿日晦日平均相場ヲ以可渡事

但米ヲ願フ者ハ渡日十日前ニ出納司

一可申出サ芽一等ヨリ六等迄ハ四分

ノ一芽十一等ヨリ以下半數淺草御

藏ニ於テ賜ル最御米ノ都合ニ寄

候テハ皆金ヲ以可賜事

一遠國在勤或ハ府縣共金渡ハ前同様其管轄場所ノ相場ヲ以可渡事

但遠國在勤或府縣共他ノ管轄ニ於

テ請取之儀ハ其預ル所ノ證書於無
之者一切不相渡壁言右證書ヲ以一時
取換ヲ請ト雖氏連ニ戻入可致事
一病氣引其處ニ於テ養生中職務被免無之
間ハ官禄可賜事

但日數百日外ニ至候得者職務被免
無之共官禄不賜事

一願濟タリハ飯國或他行等之者ハ其日數
官禄相省キ候事

一何レノ地ニテ職務拜 命致スト雖モ其職
ヲ奉セサル間ハ官禄不賜候事

一使部仕下ハ芽十六等ノ二等ヲ以テ可賜
事

一准スルノ官禄ハ本官四分ノ三心得勤ハ二分
之二試補ハ半數ヲ賜ル事

一出仕官禄ハ

勅任官奏仕官判任官共下等ヲ以可賜事

一萬一諸取過等有之節ハ速ニ返納可致若違々
ニ及候節ハ翌月渡リ官禄ノ内ヨリ引去可賜
事

一役儀被 免候テ御用有之間歸藩見合滞

府可罷在旨御達之者ハ右滞府中元

官禄ノ三分一ヲ可賜事

一官中之者病死候節ハ為御年當三ヶ月分之

官禄可賜事

一官禄可賜場所ヨリハ定則日限ノ相場隔月迄

省に可達事

右之通確定之事

己

八月

大藏省

海軍御旗章國旗章元諸旗章別冊之通
ニ候條各省府藩縣ニ於テ紛敷印相用申
間敷其官内外國形運送船ニ桅縮帆桁ノ
端ニ國旗ヲ掲ケ中桅ニ其省府藩縣ノ符號
旗ヲ掲グヘキ事

御旗

地赤金、菱



一御旗 錦布舎銀月章

縦七尺八寸横一丈二尺七寸

風下余幅

五寸八分

但、縦、横、厚、三分、二

又横全、二分、一、風下、緑、

加フ

日月ノ經、縦、徑、五分、三、下、定、ム

裏面銀月



皇族旗

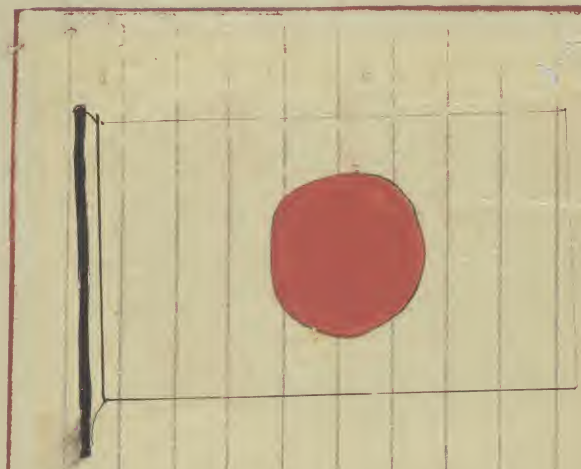


地青金、花菱

一皇族旗 青地錦布紅月章

縦横右、同、

御國旗



一御國旗 白布紅日章

縦横右三同シ

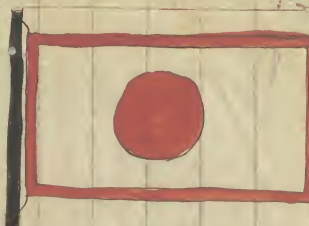
風雨ノ日及ヒ小艦ニ在ラハハナル者ヲ
用ユ縦横ノ比例ハ定法ニ從フベシ

一船首旗章 國旗ニ同シ

縦六尺横八尺

小艦ニ在ラハハナル者ヲ用ユ但信号
ニハ定尺ノ者ヲ用ユ

大將旗



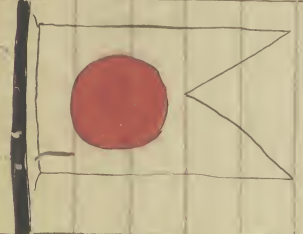
中將旗



少將旗



代將旗



一大將旗 白布紅綠日章

縦六尺横九尺風下余幅守テ

一中將旗 白布紺緑紅日章

縦横右三同シ

一少將旗 白布黃緑紅日章

縦横右三同シ

一代將旗 白布紅日

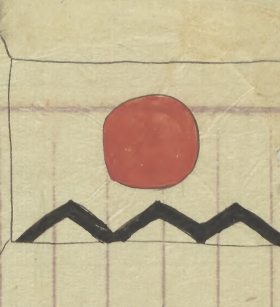
縦横右三同シ

但シ三角形四截ニ分ル

一旗 白布紅日

大長リ 八間上幅四寸

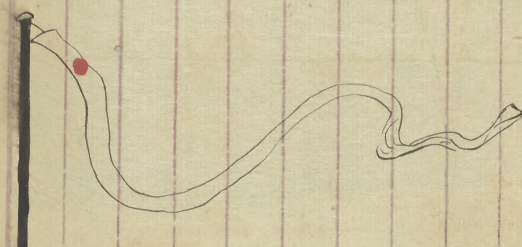
海軍附屬護送船旗



水路嚮導旗



旗



中長 五間半上幅三寸五分
 小長 三間半上幅三寸
 四截 全長二分一

一 海軍附屬護送船旗白布紅日紐山形縦六尺横八尺

但艦隊屬スナハ旗ヲ掲ク

一 水路嚮導旗白布紐隅紅日章

縦横右ニ同シ

一 各府藩縣船其首府藩縣ノ符號

縦横右ニ同シ

庚午
 九月

太政官

